

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日					
放課後等デイサービス りぼん		令和 7年 12月 24日					
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		学習の場・活動の場・余暇の場を柵などでわけて配置している。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。			○	利用人数に対して職員の配置数は足りている。	複数の学校に送迎に行く際、下校時間が被り人手が足りない時がある。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。			○	小さな段差等はあるが、現在通所している児童については支障はない。場所の使用目的などを視覚的ツールで掲示することで、児童は把握できている。	施設内が声が響く環境下にあるため、各児童に対する声掛けの仕方や声の大きさなどに配慮し情報伝達を行っている。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		毎日清掃を行い、感染対策も行っている。活動の内容によっては場所を変更して対応している。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。			○	平常時は職員が見守りをしやすいように柵などで区切り配置している。	各児童の状況によってはクールダウンできるような空間を準備する。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		朝礼やミーティング時に最新の情報交換を行い、最適な手段を話し合う場がある。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		満足度アンケートを行い保護者様の意向を把握する機会を設けている。アンケート以外にSNSや送迎時に直接意向をお伺いすることで業務改善につなげられるように努力はしている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		朝礼やミーティングなどで職員からの業務改善点の提案を話し合う場がある。その時点での最善の業務改善を行うように努力している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		外部講師から、助言を受けている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		常勤職員に関しては法人内や外部の研修に参加している。	非常勤職員は研修等に参加する機会が少ないため、研修等に参加できるような体制を検討する必要がある。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ひと月ごとに支援プログラムをホームページで公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		児童や保護者のニーズを確認して作成し、了承を得ている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		サービス利用計画書を作成するための作成会議を行っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員間で児童の情報共有をして支援している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		その日その日の児童の状況を職員間で検討し対応をしている。	急な職員の欠員が出た場合に、手薄になってしまう状況が生まれることもある。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		プログラムの案を出してもらい、作成担当者が作成している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		療育のねらいを指針に、インターネットから当時業所の児童に必要な活動を検索して活用している。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個々に応じた生活個別課題を職員間で検討し活動に取り入れたり、集団でのSSTや児童同士が協力して行うような集団活動を取り入れている。下校時間がまちまちだったり、その日の児童の心理的状況が不安定だったりしたときに十分な支援に結びつかないことがある。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		常勤職員間ではその日の支援の確認ができています。	非常勤職員はその時間に出動できないこともあり、十分な情報共有がうまくいかないこともある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		送迎終了時間が就業時間ギリギリになるため、十分な情報共有に結びつかないことがある。	就業時間内にできない時は、翌朝の朝礼時に共有するようにしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。		○	日々の支援記録はできている。	振り返る時間を確保できていないことが多いので改善が必要と思われる。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月ごとにモニタリングを行い、計画書の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		プログラムには取り入れているが、下校時間などのその日の状況によっては実施できないこともある。	その時は極力ガイドラインに沿えるような内容に変更して行うように努力している。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		児童が自分の意見を考えて発表する場面や選択肢を提示して答えられるような活動を取り入れている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校行事や下校時間は、各週の時間割で確認している。下校時間の近い児童と同じ送迎に組んだ場合、児童を待たせてしまうことがある。	送迎時の対応やトラブルは個別に必要と判断したときに学校と連絡をとるようにしている。また、常日頃から児童にも送迎の待ち合わせ場所を確認しておく必要がある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	同法人内の児童発達支援事業所からの児童とは情報共有できている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	同法人内の就労継続支援事業所に移行した児童については就業時間に直接会うこともあり、その事業所の職員と情報の共有をすることがあるが、他事業所に移行した児童の情報共有は少ない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	他の経験豊富な関係機関の職員に、不登校支援についての知識や助言を受けたことはある。	外部の研修等に参加したり、多職種や他の事業所から助言をもらえるような関係づくりに努めたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	今までは機会がなかったが、今後はそのような場も大事になってくると思う。	交流できる機会があるかの情報収集を行う。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	参加はできていない。	参加できるように努めたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送りの送迎時にその日の児童の様子を伝えていく。よくできたことや不得意で難しかったことも伝えていく。	直接会えない保護者については課題や強みについて電話やSNSで伝えることもある。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	ホームページ内のブログで、情報を発信している。	多くの保護者に見ていただけるように口頭でも周知が必要である。また、家族が参加できるような研修なども周知できればいいと思う。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用契約時に丁寧に説明しており、自己負担となるような活動のときは、再度丁寧に直接かSNSを使って説明し、同意を貰っている。	支援プログラムや利用者負担などについて、問い合わせがあった場合は、丁寧に説明を行っている。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		サービス提供計画書を見直す際に、児童や保護者の意向を確認するように務めている。		
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		支援内容の説明を文書を用いに行い、保護者から同意を得ている。		
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者からの相談事について、送迎時や電話などで話す機会を設けており、内容によっては持ち帰り上司や職員間で話し合い助言や支援を行っている。	上司の判断を仰ぐときに、保護者への返事が遅くなることがある。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○	事業所が開所してから半年になるが、まだ父母会や保護者参加型の活動を行っていない。	今後は年に1~2回保護者参加型の活動を行っていくことを検討している。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	できる限り早く事実確認や対応を検討し、保護者にも返答するように努めている。	同じような苦情が発生しないように、職員間でも情報の共有を行うようにしている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	定期的にホームページの見直しや翌月分の活動プログラムをホームページにアップしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	顔写真NGの児童に対し、アルバムやブログ写真を作成するときに発見することがあるが、担当職員だけでなく上司にチェックしてもらったりして公開を防止している。個人情報も口外しないように気を付けている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	個別に声掛けしたり、わかりやすい言葉で工夫して伝えるようにしている。保護者にも通常の連絡手段で伝わりづらい時は、個別に直接伝えるようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	図っていない。	今後、検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	マニュアルはあるが、全職員が把握できているかは定かでない。	ミーティングや研修等で周知の徹底が必要。保護者には契約時にお伝えしているが、十分ではない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	避難訓練を行っている。	救出やその他の訓練も検討が必要と思われる。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	契約時やそのような状態になった場合に確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	食物アレルギーがある児童は現在いない。契約時にアレルギーの有無は保護者に確認している。	契約時や更新時などにアレルギーの有無の確認が必要となってくる。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	安全な環境で支援を受けられるように、危険と判断した場所は改善し、児童にも想定される危険性を周知してするように努めている。	安全管理に必要な研修や訓練の実施を検討する必要がある。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	特に危険性が高い児童に対してはその都度周知しており、その他の児童に対しても危険性を周知している。	保護者には危険だった状況はお伝えしているか、どのような対策を行ったかまでは伝えられていないことが多いので、対策等もお伝えていきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	月1回のミーティング時に職員間で共有している。早めに周知が必要と思われる事例については、その都度朝礼等で職員に周知している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	事業者内や外部の研修を受けている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	今までに身体拘束を行うような事例はない。	該当するケースがなかったため、意識が低かったと感じる。	